（4）知的障害による養育の困難度

①知的障害による養育の困難度

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く知的障害による養育の困難度は、「疾患・障害のため養育できない状態」が 5.2%、「養育できるものの困難を引き起こす状態」が 7.6%、「多少の困難はあるが養育できる状態」が 4.7%、であり、知的障害により養育について何らかの問題がある割合は 20%弱存在した。

先に示した結果と比較すると、身体障害による養育の困難度よりも知的障害による養育の困難度の方が深刻であることがわかった。

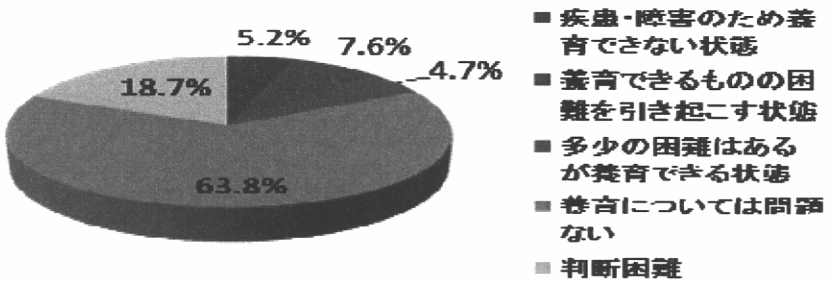

図 7-8　知的障害による養育の困難度　n=2,828

②知的障害による養育の困難度別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、知的障害による養育の困難度別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、養育の困難度が低い「養育については問題ない」場合、「家庭復帰の見込み有り」が 25.0%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が 30.8%であるのに対して、養育の困難度が高い「疾患・障害のため養育できない状態」の場合は、「家庭復帰の見込み有り」が 3.4%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が 12.2%と比較的少なく、「家庭復帰困難又は見込み無し」が 76.2%にのぼった。

知的障害による養育の困難度が家庭復帰の見通しに影響を与えている様子がうかがえる。前述した「身体疾患・障害」よりも「知的障害」の方が家庭復帰の見通しに大きく影響している傾向にある。

表 7－42　知的障害による養育の困難度別にみた家庭復帰の見通し　n=2,828

		養育の困難度				
		疾患・障害のため養育できない状態	養育できるものの困難を引き起こす状態	多少の困難はあるが養育できる状態	養育については問題ない	判断困難
	回答数	147	214	133	1805	529
家庭復帰の見通し	家庭復帰の見込み有り	3.4%	5.6%	26.3%	25.0%	5.5%
	当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	12.2%	24.8%	34.6%	30.8%	14.7%
	家庭復帰困難又は見込み無し	76.2%	62.6%	33.8%	37.2%	70.1%
	判断困難	8.2%	7.0%	5.3%	6.9%	9.6%
	χ^2=328.32***	100%	100%	100%	100%	100%

(5) 精神障害による養育の困難度

①精神障害による養育の困難度

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く精神障害による養育の困難度は「疾患・障害のため養育できない状態」が 10.2%、「養育できるものの困難を引き起こす状態」が 10.5%、「多少の困難はあるが養育できる状態」が 6.6%であり、精神障害により養育について何らかの問題がある割合は 30%弱存在した。

(10)及び(11)で示した結果と比較すると、身体障害や知的障害による養育の困難度よりも精神障害による養育の困難度の方が深刻であることがわかった。

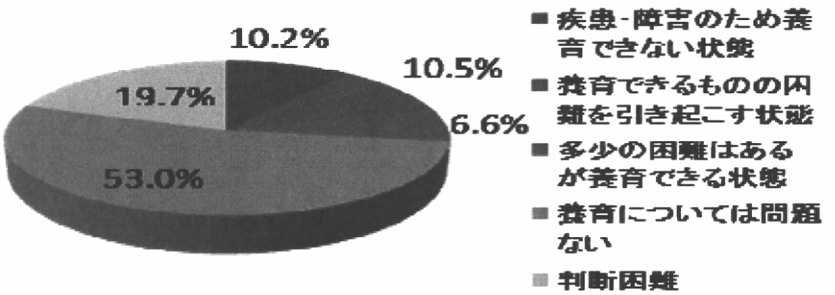

図 7-9　精神障害による養育の困難度　n=2,845

②精神障害による養育の困難度別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、精神障害による養育の困難度別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、養育の困難度が低い「養育については問題ない」場合、「家庭復帰の見込み有り」が 23.8%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が 28.8%であるのに対して、養育の困難度が高い「疾患・障害のため養育できない状態」の場合は、「家庭復帰の見込み有り」が 4.1%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が 22.3%と比較的少なく、「家庭復帰困難又は見込み無し」が 66.3%にのぼった。

精神障害による養育の困難度が家庭復帰の見通しに影響を与えている様子がうかがえる。

表 7－44　精神障害による養育の困難度別にみた家庭復帰の見通し　n=2,838

		養育の困難度				
		疾患・障害のため養育できない状態	養育できるものの困難を引き起こす状態	多少の困難はあるが養育できる状態	養育については問題ない	判断困難
	回答数	291	296	188	1503	560
家庭復帰の見通し	家庭復帰の見込み有り	4.1%	14.5%	48.4%	23.8%	5.9%
	当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	22.3%	35.8%	27.1%	28.8%	17.7%
	家庭復帰困難又は見込み無し	66.3%	43.6%	20.2%	40.7%	65.7%
	判断困難	7.2%	6.1%	4.3%	6.7%	10.7%
χ^2=342.15***		100%	100%	100%	100%	100%

（6）養育の問題状況（人的障害傾向）

①養育の問題状況（人的障害傾向）

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、人的障害傾向に関する養育の問題状況は「有り」である割合は12.9%であり、「無し」は63.1%であった。

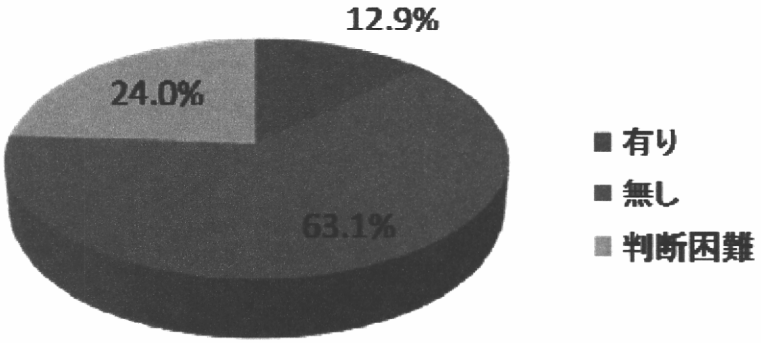

図 7-10　養育の問題状況（人的障害傾向）　n=2,867

②人的障害による養育の困難度別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、人的障害による養育の問題状況別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、問題状況が「無い」場合、「家庭復帰の見込み有り」が23.4%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が30.2%であるのに対して、養育の問題状況が「有り」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が15.3%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が24.3%と比較的少なく、「家庭復帰困難又は見込み無し」が55.0%にのぼった。

人的障害による養育の問題状況が家庭復帰の見通しに影響を与えている可能性がうかがえる。

表 7-46　人的障害による養育の困難度別にみた家庭復帰の見通し　n=2,859

		養育の問題状況		
		有り	無し	判断困難
	回答数	367	1804	688
家庭復帰の見通し	家庭復帰の見込み有り	15.3%	23.4%	9.2%
	当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	24.3%	30.2%	17.6%
	家庭復帰困難又は見込み無し	55.0%	39.6%	62.9%
	判断困難	5.4%	6.8%	10.3%
	χ^2=160.70***	100%	100%	100%

（7）養育の問題状況（抑うつ傾向）

①養育の問題状況（抑うつ傾向）

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、人的障害傾向に関する養育の問題状況は、抑うつ傾向の養育の問題状況が「有り」である割合は19.4%であり、「無し」は56.8%であった。この結果は「人的障害傾向」よりも「有り」の割合が多くなっており、抑うつ傾向が2割弱の養育問題に関わっていることがわかった。

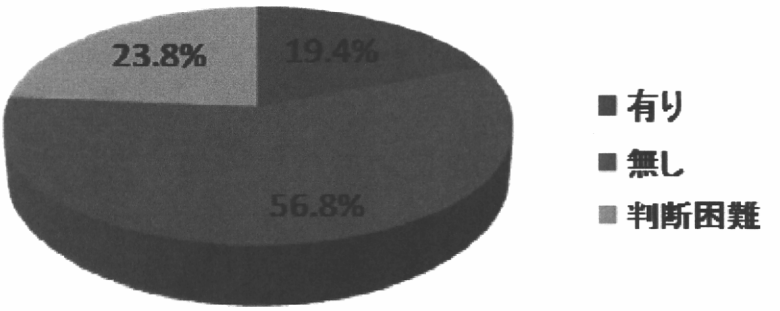

図 7-11　養育の問題状況（抑うつ傾向）　n=2,869

②抑うつ傾向による養育の困難度別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、抑うつ傾向による養育の問題状況別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、養育の問題状況が「無い」場合、「家庭復帰の見込み有り」が22.8%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が29.2%であるのに対して、養育の問題状況が「有り」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が19.7%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が29.2%であり、「家庭復帰困難又は見込み無し」が45.7%にのぼった。

「人的障害」ほどではないが、抑うつ傾向による養育の問題状況が家庭復帰の見通しに影響を与えている可能性がある。

表 7－48　抑うつ傾向による養育の困難度別にみた家庭復帰の見通し　n=2,861

		養育の問題状況		
		有り	無し	判断困難
	回答数	558	1624	679
家庭復帰の見通し	家庭復帰の見込み有り	19.7%	22.8%	8.5%
	当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	29.2%	29.2%	17.7%
	家庭復帰困難又は見込み無し	45.7%	41.1%	63.2%
	判断困難	5.4%	6.9%	10.6%
	χ^2=141.05***	100%	100%	100%

（8）養育の問題状況（アルコール乱用）

①養育の問題状況（アルコール乱用）

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、アルコール乱用に関する養育の問題状況は、アルコール乱用に関する養育の問題状況が「有り」である割合は2.5%であり、「無し」は74.0%であった。「人的障害傾向」や「抑うつ傾向」よりも「有り」である回答は少数であった。

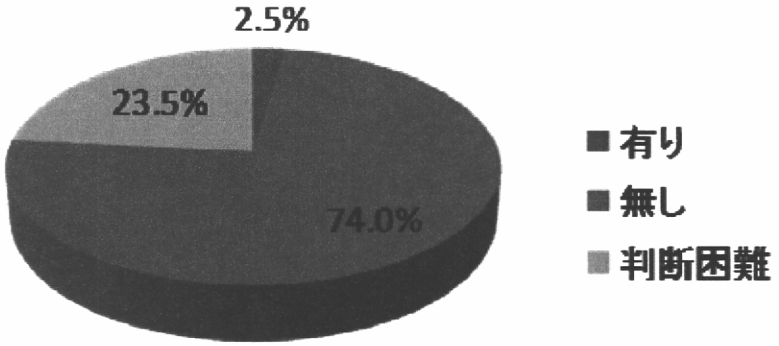

図 7-12　養育の問題状況（アルコール乱用）　n=2,865

②アルコール乱用による養育の困難度別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、アルコール乱用による養育の問題状況別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、問題状況が「無い」場合、「家庭復帰の見込み有り」が22.1%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が30.2%であるのに対して、養育の問題状況が「有り」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が11.3%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が28.2%と少ない傾向にあり、「家庭復帰困難又は見込み無し」が56.3%にのぼった。

アルコール乱用による養育の問題状況が家庭復帰の見通しに影響を与えている可能性がある。

表 7－50　アルコール乱用による養育の困難度にみた家庭復帰の見通し　n=2,857

		養育の問題状況		
		有り	無し	判断困難
	回答数	71	2116	670
家庭復帰の見通し	家庭復帰の見込み有り	11.3%	22.1%	9.4%
	当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	28.2%	30.2%	14.6%
	家庭復帰困難又は見込み無し	56.3%	40.9%	65.8%
	判断困難	4.2%	6.8%	10.1%
	χ^2=169.52***	100%	100%	100%

（9）養育の問題状況（子どもへの愛着形成の困難）

①養育の問題状況（子どもへの愛着形成の困難）

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、子どもへの愛着形成の困難に関する養育の問題状況は、子どもへの愛着形成の困難に関する養育の問題状況が「有り」である割合は22.0%であり、「無し」は53.8%であった。「人的障害傾向」、「抑うつ傾向」、「アルコール乱用」よりも「有り」である回答は多数であり、この問題が乳幼児の入所に大きく関連している可能性が確認できた。

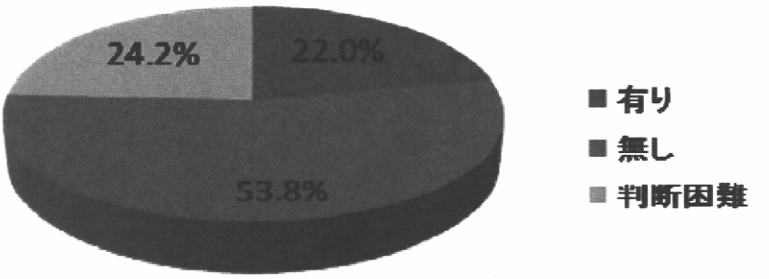

図 7-13　養育の問題状況（子どもへの愛着形成の困難）　n=2,876

②子どもへの愛着形成の困難による養育の困難度別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、子どもへの愛着形成の困難による養育の問題状況別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、養育の問題状況が「無し」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が29.6%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が31.8%であるのに対して、養育の問題状況が「有り」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が4.4%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が21.7%とかなり少ない傾向にあり、「家庭復帰困難又は見込み無し」が65.9%にのぼった。

この養育問題の有無によって「家庭復帰の見込み」が25.2ポイントも異なることは注目に値する。子どもへの愛着形成の困難による養育の問題状況が家庭復帰の見通しに大きく影響を与えている可能性がある。

表 7－52　子どもへの愛着形成の困難による養育の困難度別にみた家庭復帰の見通し

n=2,868

		養育の問題状況		
		有り	無し	判断困難
	回答数	71	2116	670
家庭復帰の見通し	家庭復帰の見込み有り	4.4%	29.6%	7.8%
	当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	21.7%	31.8%	18.9%
	家庭復帰困難又は見込み無し	65.9%	32.6%	62.6%
	判断困難	7.9%	6.0%	10.7%
	χ^2=412.13***	100%	100%	100%

（10）養育の困難度別にみた家庭復帰の見通しについての考察

養育の困難度別にみた家庭復帰の見通しでは、困難度が高まると家庭復帰の見通しが悪くなる傾向がみられた。「家庭復帰困難又は見込み無し」の割合が最も高い困難事項は「知的障害」によって「疾患・障害のため養育できない状態」である場合であり 76.2%であった。続いて「精神障害」によって「疾患・障害のため養育できない状態」である場合が 66.3%、「子どもへの愛着形成の困難」が「有り」の場合が 65.9%などであった。一方、「抑うつ傾向」が「有り」の場合は 45.7%であり、「無し」の場合の 41.1%と比較してそれほど大差はなかった。

3. 情緒・行動上の問題からみた乳幼児

（1）情緒・行動上の問題（自閉的傾向）

①情緒・行動上の問題（自閉的傾向）

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、自閉的傾向に関する情緒・行動上の問題状況は、自閉的傾向に関する情緒・行動上の問題状況について、「疑いなし」は 85.7%であったが、「やや疑いあり」、「疑いあり」、「確かに問題あり」を合わせると 6.5%となった。

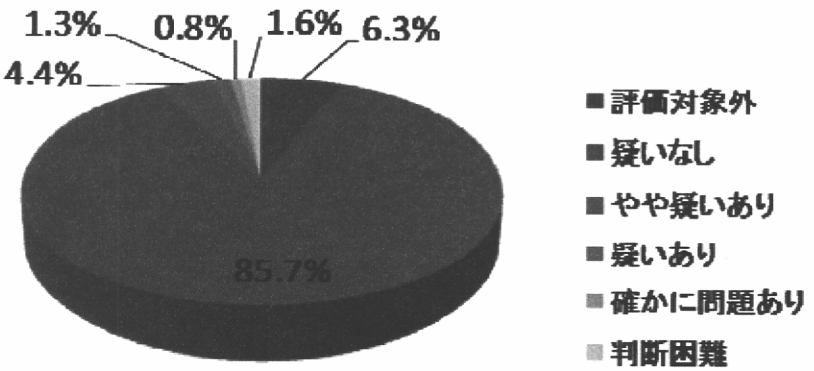

図 7-14　情緒・行動上の問題（自閉的傾向）　n=2,938

②自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が 19.1%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が 27.7%であるのに対し、当該情緒・行動上の問題が「確かに問題あり」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が 16.7%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が 0.0%と少なくなり、「家庭復帰困難又は見込み無し」が 75.0%にのぼった。

「家庭復帰困難又は見込み無し」の数値などから、自閉的傾向による情緒・行動上の問題が深刻になると家庭復帰の見通しが悪くなる可能性があると思われる。

表 7－54　自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し n=2,921

		情緒・行動上の問題					
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	184	2501	128	38	24	46
家庭復帰の見通し	家庭復帰の見込み有り	20.7%	19.1%	11.7%	10.5%	16.7%	2.2%
	当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	14.1%	27.7%	28.9%	15.8%	0.0%	17.4%
	家庭復帰困難又は見込み無し	57.6%	45.5%	50.8%	68.4%	75.0%	71.7%
	判断困難	7.6%	7.8%	8.6%	5.3%	8.3%	8.7%
	χ^2=53.71***	100%	100%	100%	100%	100%	100%

③自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、ケアの負担感が「変わらない」が 50.9%であり、「かなり重いケア負担」が 18.2%であるのに対し、当該情緒・行動上の問題が「確かに問題あり」の場合、「変わらない」が 9.1%と少なく、「かなり重いケア負担」が 45.5%と多かった。

自閉的傾向による情緒・行動上の問題が深刻になるとケアの負担感が重くなる可能性が大きいといえる。

表 7－55　自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感 n=815

		情緒・行動上の問題					
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	55	651	51	23	11	24
ケアの負担感	変わらない	50.9%	63.1%	37.3%	17.4%	9.1%	20.8%
	やや重いケア負担	30.9%	28.9%	43.1%	39.1%	45.5%	29.2%
	かなり重いケア負担	18.2%	8.0%	19.6%	43.5%	45.5%	50.0%
	χ^2=222.06***	100%	100%	100%	100%	100%	100%

④自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、ケアの適合状況が「適している」が 86.0%であり、「適していない」が 14.0%であるのに対し、当該情緒・行動上の問題が「確かに問題あり」の場合、「適している」が 45.8%と少なく、「適していない」が 54.2%と多かった。

自閉的傾向による情緒・行動上の問題が深刻になるとケアの適合状況が悪化する傾向にあるといえる。

表 7－56　自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況 n=2,903

		情緒・行動上の問題					
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	181	2487	127	38	24	46
ケアの適合状況	適している	76.8%	86.0%	68.5%	42.1%	45.8%	47.8%
	適していない	23.2%	14.0%	31.5%	57.9%	54.2%	52.2%
	χ^2=149.05***	100%	100%	100%	100%	100%	100%

⑤自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみた「適していない」と回答した場合の「適している他の施設」

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、自閉的傾向による情緒・行動上の問題があり「適していない」と回答した場合の（主観的な）「適している他の施設」は、知的障害児施設が 9 件、家庭が 1 件などとなった。「疑いあり」の場合も、知的障害児施設が 12 件と多かった。

表 7－57　「適していない」と回答した場合の「適している他の施設」（自閉的傾向）n=489

		適している他の施設	回答数
情緒・行動上の問題	評価対象外	児童養護施設	11
		知的障害児施設	2
		病院	1
		家庭	9
		里親の家	7
		その他	12
	疑いあり	児童養護施設	80
		情緒障害児短期施設	1
		児童自立支援施設	2
		母子生活支援施設	3
		他の乳児院	6
		知的障害児施設	24
		病院	2
		家庭	52
		親戚の家	6
		里親の家	123
		その他	49
	やや疑いあり	児童養護施設	8
		情緒障害児短期施設	1
		知的障害児施設	5
		家庭	6
		里親の家	11
		その他	9
	疑いあり	児童養護施設	1
		情緒障害児短期施設	1
		知的障害児施設	12
		家庭	3
		里親の家	1
		その他	4
	確かに問題あり	知的障害児施設	9
		家庭	1
		その他	3
	判断困難	児童養護施設	1
		他の乳児院	1
		知的障害児施設	2
		病院	2
		里親の家	1
		その他	17

（2）情緒・行動上の問題（養育者との関係性）

①情緒・行動上の問題（養育者との関係性）

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、養育者との関係性に関する情緒・行動上の問題状況は、養育者との関係性に関する情緒・行動上の問題状況について、この項目は「評価対象外」が多かったが、「疑いなし」は45.7%であり、「やや疑いあり」、「疑いあり」、「確かに問題あり」を合わせると4.5%と少なかった。

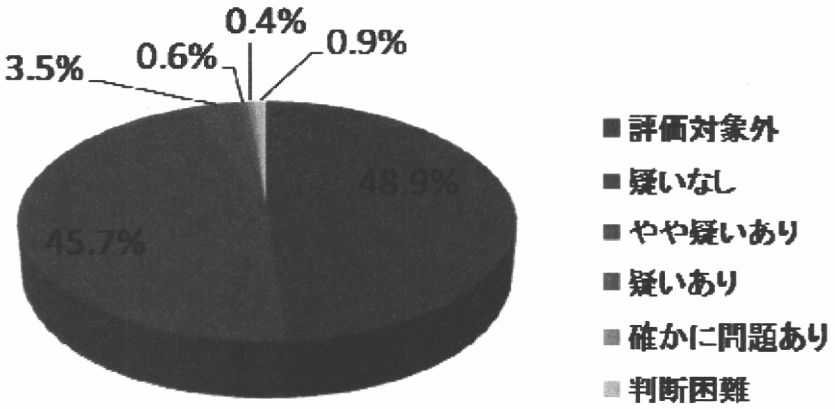

図 7-15　情緒・行動上の問題（養育者との関係性）　n=2,795

②養育者との関係性による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、養育者との関係性による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が20.9%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が25.8%であるのに対し、当該情緒・行動上の問題が「確かに問題あり」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が16.7%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が16.7%と少なくなり、「家庭復帰困難又は見込み無し」が66.7%にのぼった。

「家庭復帰困難又は見込み無し」の数値などから、養育者との関係性による情緒・行動上の問題が深刻になると家庭復帰の見通しが悪くなる可能性があると推察された。

表7－59　養育者との関係性による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し n=2,778

		情緒・行動上の問題					
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	1360	1267	97	17	12	25
家庭復帰の見通し	家庭復帰の見込み有り	16.3%	20.9%	11.3%	11.8%	16.7%	12.0%
	当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	27.4%	25.8%	26.8%	23.5%	16.7%	24.0%
	家庭復帰困難又は見込み無し	46.8%	47.2%	52.6%	64.7%	66.7%	60.0%
	判断困難	9.5%	6.1%	9.3%	0.0%	0.0%	4.0%
χ^2=53.71***		100%	100%	100%	100%	100%	100%

③養育者との関係性による情緒・行動上の問題別にケアの負担感

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、養育者との関係性による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感（割合）は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「変わらない」が 58.3%、「かなり重いケア負担」が 7.8%であるのに対し、当該情緒・行動上の問題が「確かに問題あり」の場合、回答数は少ないが、「変わらない」が 0.0%であり、「かなり重いケア負担」が 80.0%であった。

表 7－60　養育者との関係性による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感 n=789

		情緒・行動上の問題					
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	319	391	48	14	5	12
ケアの負担感	変わらない	66.1%	58.3%	29.2%	50.0%	0.0%	25.0%
	やや重いケア負担	26.0%	31.5%	50.0%	21.4%	20.0%	16.7%
	かなり重いケア負担	7.8%	10.2%	20.8%	28.6%	80.0%	58.3%
	χ^2=199.16***	100%	100%	100%	100%	100%	100%

④養育者との関係性による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、養育者との関係性による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「適している」が 78.8%、「適していない」が 21.2%であるのに対し、当該情緒・行動上の問題が「確かに問題あり」の場合、「適している」が 50.0%、「適していない」が 50.0%となった。

養育者との関係性による情緒・行動上の問題が深刻になるとケアの適合状況が悪化する傾向にあると思われる。

表 7－61　養育者との関係性による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況 n=2,762

		情緒・行動上の問題					
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	1345	1266	97	17	12	25
ケアの適合状況	適している	90.6%	78.8%	59.8%	52.9%	50.0%	40.0%
	適していない	9.4%	21.2%	40.2%	47.1%	50.0%	60.0%
	χ^2=161.66***	100%	100%	100%	100%	100%	100%

（3）情緒・行動上の問題（注意欠陥・多動傾向）

①情緒・行動上の問題（注意欠陥・多動傾向）

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、注意欠陥・多動傾向に関する情緒・行動上の問題状況は、注意欠陥・多動傾向に関する情緒・行動上の問題状況について、この項目は「評価対象外」が多かったが、「疑いなし」は 39.9%であっり、「やや疑いあり」、「疑いあり」、「確かに問題あり」を合わせると 8.1%とやや多かった。

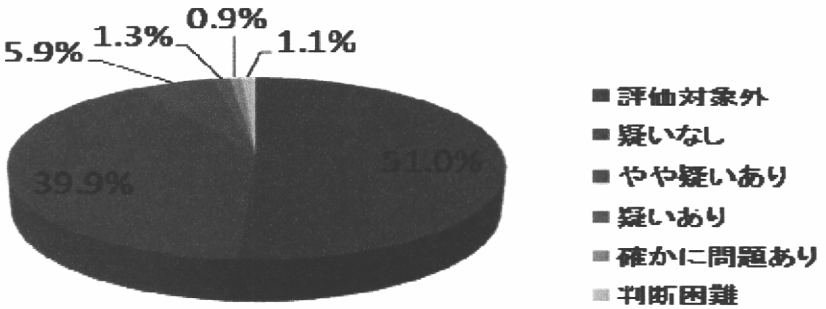

図 7-16　情緒・行動上の問題（注意欠陥・多動傾向）　n=2,792

②注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が 21.3%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が 27.4%であるのに対し、当該情緒・行動上の問題が「確かに問題あり」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が 8.3%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が 12.5%と少なくなり、「家庭復帰困難又は見込み無し」が 79.2%にのぼった。

「家庭復帰困難又は見込み無し」の数値などから、注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題が深刻になると家庭復帰の見通しが悪くなる可能性があると思われる。

表 7－63　注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し

n=2,778

		情緒・行動上の問題					
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	1418	1104	165	35	24	29
家庭復帰の見通し	家庭復帰の見込み有り	16.8%	21.3%	13.3%	8.6%	8.3%	13.8%
	当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	27.0%	27.4%	21.2%	17.1%	12.5%	17.2%
	家庭復帰困難又は見込み無し	47.0%	45.1%	58.8%	65.7%	79.2%	62.1%
	判断困難	9.2%	6.3%	6.7%	8.6%	0.0%	6.9%
χ^2=42.576***		100%	100%	100%	100%	100%	100%

③注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「変わらない」が 60.6%、「かなり重いケア負担」が 7.9%であるのに対し、当該情緒・行動上の問題が「確かに問題あり」の場合、「変わらない」が 0.0%であり、「かなり重いケア負担」が 71.4%と多かった。

注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題が深刻になるとケアの負担感が重くなる可能性があると思われる。

表 7－64　注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感 n =790

		情緒・行動上の問題					
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	332	340	67	23	14	14
ケアの負担感	変わらない	66.9%	60.6%	37.3%	26.1%	0.0%	21.4%
	やや重いケア負担	25.0%	31.5%	47.8%	34.8%	28.6%	21.4%
	かなり重いケア負担	8.1%	7.9%	14.9%	39.1%	71.4%	57.1%
	χ^2=303.71***	100%	100%	100%	100%	100%	100%

④注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「適している」が 79.3%、「適していない」が 20.7%であるのに対し、当該情緒・行動上の問題が「確かに問題あり」の場合、「適している」が 37.5%であり、「適していない」が 62.5%であった。

注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題が深刻になるとケアの適合状況が悪化する傾向にあると思われる。

表 7－65　注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況 n=79 0

		情緒・行動上の問題					
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	345	397	20	7	0	16
ケアの負担感	変わらない	65.2%	56.9%	30.0%	14.3%	－	18.8%
	やや重いケア負担	25.8%	33.5%	25.0%	14.3%	－	43.8%
	かなり重いケア負担	9.0%	9.6%	45.0%	71.4%	－	37.5%
	χ^2=214.99***	100%	100%	100%	100%	－	100%

（4）情緒・行動上の問題（反社会的行動傾向）

①情緒・行動上の問題（反社会的行動傾向）

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、反社会的行動傾向に関する情緒・行動上の問題状況は、反社会的行動傾向に関する情緒・行動上の問題状況について、この項目は「評価対象外」が多く半数を超えたが、「疑いなし」も44.2%であり、「やや疑いあり」、「疑いあり」、「確かに問題あり」は合計しても1.6%と少なかった。

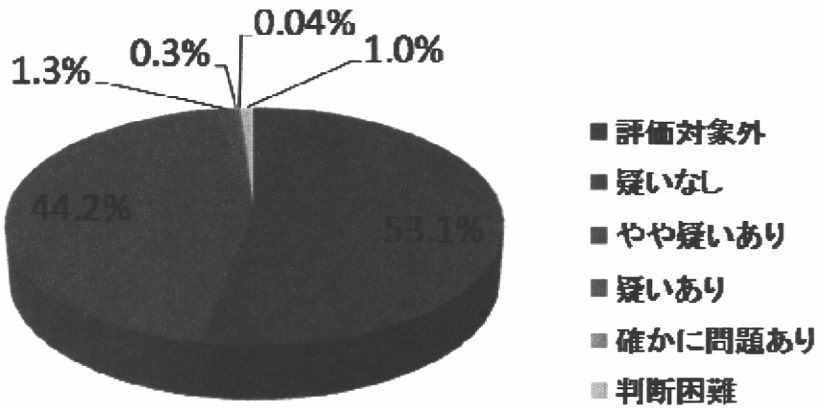

図 7-17　情緒・行動上の問題（反社会的行動傾向）　n=2,782

②反社会的行動傾向による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、反社会的行動傾向による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が20.2%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が25.7%であった。「確かに問題あり」の回答は1件、「疑いあり」の回答は9件しかなかった。

表 7－67　反社会的行動傾向による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し

n=2,766

		情緒・行動上の問題					
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	1471	1222	36	9	1	27
家庭復帰の見通し	家庭復帰の見込み有り	16.7%	20.2%	13.9%	0.0%	100.0%	11.1%
	当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	27.0%	25.7%	38.9%	33.3%	0.0%	14.8%
	家庭復帰困難又は見込み無し	47.2%	47.9%	38.9%	66.7%	0.0%	66.7%
	判断困難	9.1%	6.2%	8.3%	0.0%	0.0%	7.4%
χ^2=27.12**		100%	100%	100%	100%	100%	100%

③反社会的行動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、反社会的行動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「変わらない」が 56.9%、「疑いあり」が 14.3%であった。

表 7－68　反社会的行動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感 n=785

		情緒・行動上の問題					
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	345	397	20	7	0	16
ケアの負担感	変わらない	65.2%	56.9%	30.0%	14.3%	－	18.8%
	やや重いケア負担	25.8%	33.5%	25.0%	14.3%	－	43.8%
	かなり重いケア負担	9.0%	9.6%	45.0%	71.4%	－	37.5%
	χ^2=214.99***	100%	100%	100%	100%	－	100%

④反社会的行動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、反社会的行動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「適している」が 77.5%、「適していない」が 22.5%であった。「確かに問題あり」は 1 件、「疑いあり」は 9 件しか該当がなかった。

表 7－69　反社会的行動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況 n=2, 749

		情緒・行動上の問題					
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	1456	1220	36	9	1	27
ケアの適合状況	適している	89.8%	77.5%	55.6%	44.4%	100.0%	33.3%
	適していない	10.2%	22.5%	44.4%	55.6%	0.0%	66.7%
	χ^2=151.62***	100%	100%	100%	100%	100%	100%

（5）情緒・行動上の問題（自傷行為）

①情緒・行動上の問題（自傷行為）

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、自傷行為に関する情緒・行動上の問題状況は、自傷行為に関する情緒・行動上の問題状況について、この項目は「評価対象外」が多く半数を超えたが、「疑いなし」も 43.0%であり、「やや疑いあり」、「疑いあり」、「確かに問題あり」は合計すると 3.7%であった。

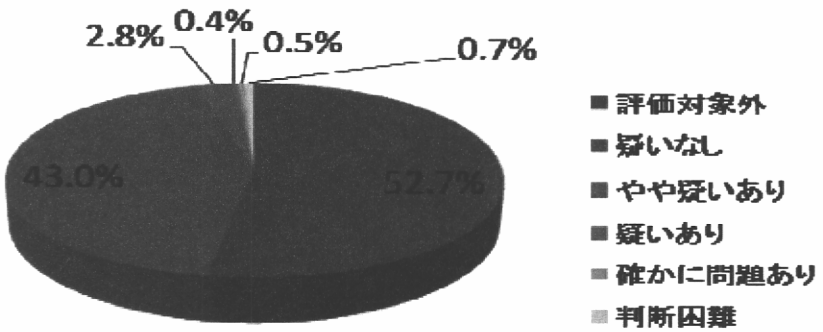

図 7-18　情緒・行動上の問題（自傷行為）　n=2,766

②自傷行為による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、自傷行為による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が 19.7%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が 26.7%であった。

一方、「確かに問題あり」の場合は、回答数が少数であるが、「家庭復帰の見込み有り」が 7.7%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が 30.8%であった。

この項目において、情緒行動上の問題と家庭復帰の見通しは、それほど関連性は見られないように思われる。

表 7－71　自傷行為による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し n=2, 750

		情緒・行動上の問題					
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	1451	1181	76	11	13	18
家庭復帰の見通し	家庭復帰の見込み有り	16.9%	19.7%	18.4%	9.1%	7.7%	27.8%
	当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	26.9%	26.2%	23.7%	18.2%	30.8%	16.7%
	家庭復帰困難又は見込み無し	47.2%	47.8%	48.7%	72.7%	46.2%	55.6%
	判断困難	9.0%	6.2%	9.2%	0.0%	15.4%	0.0%
	χ^2=18.25	100%	100%	100%	100%	100%	100%

③自傷行為による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、自傷行為による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「変わらない」が 55.4%、「かなり重いケア負担」が 10.2%であった。一方、「確かに問題あり」の場合は、回答数が少数であるが、「変わらない」が 0.0%、「かなり重いケア負担」が 60.0%であった。

表 7－72　自傷行為による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感 n=2, 750

		情緒・行動上の問題					
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	338	381	36	7	5	12
ケアの負担感	変わらない	66.6%	55.4%	44.4%	42.9%	0.0%	8.3%
	やや重いケア負担	25.4%	34.4%	27.8%	28.6%	40.0%	41.7%
	かなり重いケア負担	8.0%	10.2%	27.8%	28.6%	60.0%	50.0%
	χ^2=159.98***	100%	100%	100%	100%	600%	100%

④自傷行為による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、自傷行為による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「適している」が 77.3%、「適していない」が 22.7%であった。一方、「確かに問題あり」の場合は、「適している」が 61.5%、「適していない」が 38.5%であった。

自傷行為による情緒・行動上の問題が深刻になるとケアの適合状況が悪化する傾向にあると思われる。

表 7－73　自傷行為による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況 n=2, 733

		情緒・行動上の問題					
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	1436	1178	77	11	13	18
ケアの適合状況	適している	90.3%	77.3%	62.3%	63.6%	61.5%	16.7%
	適していない	9.7%	22.7%	37.7%	36.4%	38.5%	83.3%
	χ^2=168.17***	100%	100%	100%	100%	100%	100%

（6）情緒・行動上の問題（排泄問題）

①情緒・行動上の問題（排泄問題）

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、排泄問題に関する情緒・行動上の問題状況は、排泄問題に関する情緒・行動上の問題状況について、この項目は「評価対象外」が多く大半であった、「やや疑いあり」、「疑いあり」、「確かに問題あり」は合計してもわずかで 0.7%であった。

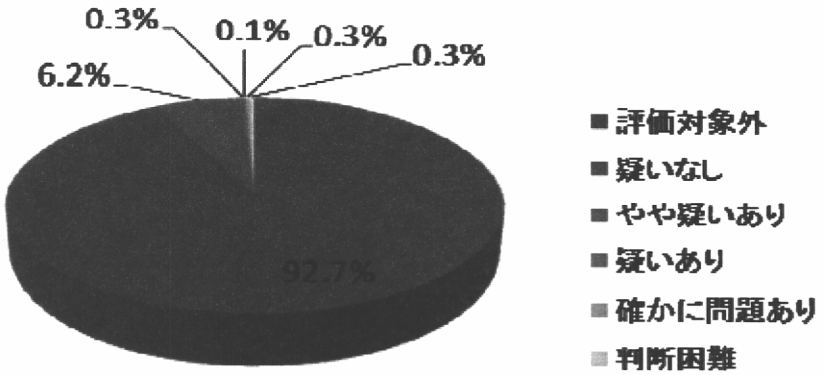

図 7-19　情緒・行動上の問題（排泄問題）　n=2,675

②排泄問題による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、排泄問題による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が 25.3%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が 33.1%であった。一方、「確かに問題あり」の場合は、回答数が少数であるが、「家庭復帰の見込み有り」が 12.5%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が 62.5%であった。

回答数が少数であるが、排泄問題による情緒・行動上の問題が深刻なほど、家庭復帰の見通しが悪い傾向にあるように思える。

表 7－75　排泄問題による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し n=2, 663

		情緒・行動上の問題					
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	2470	166	7	3	8	9
家庭復帰の見通し	家庭復帰の見込み有り	17.6%	25.3%	28.6%	33.3%	12.5%	22.2%
	当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	26.3%	33.1%	0.0%	0.0%	12.5%	33.3%
	家庭復帰困難又は見込み無し	48.1%	38.6%	57.1%	66.7%	62.5%	44.4%
	判断困難	8.0%	3.0%	14.3%	0.0%	12.5%	0.0%
χ^2=22.55*		100%	100%	100%	100%	100%	100%

③排泄問題による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、排泄問題による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「変わらない」が 65.6%、「かなり重いケア負担」が 14.1%であった。一方、「確かに問題あり」の場合は、回答数が少数であるが、「変わらない」が 0.0%、「かなり重いケア負担」が 40.0%であった。

表 7－76　排泄問題による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感 n =773

		情緒・行動上の問題					
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	694	64	6	1	5	3
ケアの負担感	変わらない	59.8%	65.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	やや重いケア負担	29.8%	20.3%	100.0%	100.0%	60.0%	66.7%
	かなり重いケア負担	10.4%	14.1%	0.0%	0.0%	40.0%	33.3%
	χ^2=95.51***	100%	100%	100%	100%	600%	100%

④排泄問題による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、排泄問題による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「適している」が 84.9%、「適していない」が 15.1%であった。なお、当問題のその他の回答数は少数であった。

表 7－77　排泄問題による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況 n=2, 644

		情緒・行動上の問題					
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	2451	166	7	3	8	9
ケアの適合状況	適している	83.4%	84.9%	14.3%	0.0%	25.0%	33.3%
	適していない	16.6%	15.1%	85.7%	100.0%	75.0%	66.7%
	χ^2=73.31***	100%	100%	100%	100%	100%	100%